

「関西のインフラ強化を進める会」開催報告

(一社)近畿建設協会

近畿建設協会では、公益事業の一環として「関西のインフラ強化を進める会」を設置しました。今回は、JAPIC国土・未来プロジェクト研究会 委員長 藤本貴也氏、建設コンサルタンツ協会 近畿支部長 兼塚卓也氏による基調説明のほか、ゲートウェイ機能の強化、ネットワーク整備をテーマに意見交換を行いました。

この度、第2回委員会を7月31日に開催しましたので、その報告をします。

委員名簿

(委員長)	小林潔司	京都大学経営管理大学院 教授
	池田豊人	近畿地方整備局 局長
	井戸智樹	歴史街道推進協議会 ネットワーク推進部長
	上村多恵子	京南倉庫(株) 社長
	岡本博	阪神高速道路(株) 常務執行役員
	小河保之	(株)URリングー ジ 参与
	長田信	近畿地方整備局 副局長
	神田彰	関西経済連合会 理事
	齋藤峻彦	近畿大学 名誉教授
	佐藤道彦	JR西日本 創造本部 アドバイザー
	鹿間孝一	産経新聞 論説委員
	清水喜代志	JR西日本 建設工事事務 技術顧問
	正司健一	神戸大学 教授
	竹内廣行	大阪府 副知事
	多田稔子	田辺市熊野ツーリズムビューロー 会長
	中塚則男	関西広域連合 事務局長
	若林陽介	前近畿運輸局長
(事務局)	霜上民生	近畿建設協会 理事長
(事務局)	兼塚卓也	建設コンサルタンツ協会 近畿支部長



藤本貴也氏



兼塚卓也氏

- (藤本氏) ● 人口減時代を迎え、その影響を大きく受ける地方部の活性化は当面の最重要課題である。大阪万博が開催されるならば、関西と西日本が浮揚するきっかけになる。関西だけでなく、九州や四国を巻き込んで西日本全体の活性化が必要。
- (兼塚氏) ● 建設コンサルタンツ協会近畿支部でまとめた提言「立ち上がれ関西 新しい道路網2050」を説明し、南海経済軸などのイメージを示した。
- (小河氏) ● プロジェクトを具体化するには言い続けることが大切であるが、言い続けると何時まで言っているのか、ということになる。圏外に発信するもの、圏内に発信するものに整理するべきである。
- (若林氏) ● 大阪の話はもちろん、日本海側・四国をどうするのか。ハード・ソフト一体の整備が必要である。また、新大阪をどこまで再開発をするのか、拠点を何処にするのかも決めるべき。

第2回シンポジウム「関西のインフラ強化を進めるために」
 日時：平成29年10月26日（木） 建設技術展2017近畿
 場所：マイドーム大阪 多目的ホール （自由参加）

次回日程：12月12日（火） 第3回委員会



第2回会合でネットワーク整備など議論
 関西インフラ強化の会
 国や自治体、経済界、学識者ら関西の産官学が集まり、経済活動や防災・減災対策、観光振興に欠かせないインフラ整備について考える「関西のインフラ強化を進める会」委員長 小林潔司、京都大学大学院教授 齋藤峻彦、大阪府副知事 竹内廣行、近畿建設協会理事長 霜上民生、建設コンサルタンツ協会近畿支部長 兼塚卓也氏らによる基調説明と意見交換が行われた。

路交通情報センター副理事 長が日本創生プロジェクトを紹介。藤本氏は関西圏連を類か、藤本氏は関西圏連プロジェクトの具体事例なども必要だと「プロジェクトを具体化するには言い続けることが大切だが、言い続けるのと、また言っている」と、また言っている外に発信するもの、圏内に発信するものに整理してほしいと、「関西は九州・四国を結び合わせる必要がある」といった意見が出た。

最後は小林委員長が「ラッシュプロジェクト」をテーマに、ラッシュプロジェクト（供給側）だけでなく、デマンドサイド（需要側）の話も議論する必要がある。これは全側面で行う必要がある」と感じている。土木学会関西支部の「テマンドサイド」の議論を進める場を作りたいという提案も認められた。

次回は12月12日（火）、「第2回シンポジウム」を開催する。また、第2回シンポジウムは10月26日に建設技術展2017近畿（マイドーム大阪）の多目的ホールで開催される。